

# 業務部速報



No. 148

発行 20. 6. 12

JR東労組 業務部

バス関申  
第11号

## 2020年度夏季手当等に関する申し入れ 組合員の日々の奮闘や努力を訴えてきました！ 第2回団体交渉を行う！

### 黒字決算を生み出した組合員の努力について

#### 組合

- ・地域・会社・職場のために、在来線を残そうと様々な取り組みをしている。バス停にベンチを設置し、お客さまから感謝されている。地域に根ざした活動で信頼を得ている。
- ・スカニアの納車前整備は、助勤を送り出す側も、行く人も負担が大きいとの意見はあるが、新たな収入確保のために車両係も努力している。
- ・昨年の台風被害での列車代行輸送は各支店からの助勤で運行している。要員不足の中で休日出勤で対応してきた。社会インフラを担う使命を果たすために支店の域を超えて努力し、会社経営も支えてきた。

#### 会社

- ・一般線について各支店の頑張りには理解している。
- ・スカニアは3~4月の一番厳しい時に業務量も多く、家族の協力もあったと理解し感謝している。
- ・これまでも台風で被災した際には救援をしてきたが、今までで一番の規模だった。

### 新型コロナウイルス対応の努力について

#### 組合

- ・緊急事態宣言下において、不安もある中で在来線をフルに走らせてきた。乗車率は少なかったが、感謝の言葉をいくつも頂戴した。数字には表れない、現場の努力で地域・社会からの信頼を得てきた。
- ・車両係は業務量の増大で疲労している中においても、安全・安定輸送の確保のために整備にあたってきた。
- ・未だ感染者を出していないのは社員の意識の高さと家族の努力があったからである。

#### 会社

- ・社員の雇用を守ると社長のメッセージを出したのは大きな判断である。
- ・給料、賃金、雇用に極力影響を与えないというのが会社のスタンスと認識していただきたい。

### 生活維持・向上、今後の貢献に対して

#### 組合

- ・組合員によっては4、5月で10万円以上の収入減でローンの支払いに苦労している。安定した生活基盤が必要だ。
- ・通常業務が減少しても、サービス向上や地域の信頼を得るために業務をしていることも評価すべきだ。
- ・コスト削減の問題意識は必要だが、業務量があるのに超勤の抑制をすればサービス残業に繋がる。労働時間管理の重要性は変わらないか。 **労働時間管理をしっかりと行っていくことを確認！**
- ・「GoTo キャンペーン」が実施予定だが、観光流動をつくるには大きな力がある。モチベーション向上が必要。

#### 会社

- ・(特別手当の要求に対して) 夏季手当時に対応するかどうかはあるが、見える形で示したい。

### ◆組合の主張

**以上の職場現実を踏まえ、納得感の持てる回答をすべきだ！**

- ・東日本大震災の影響による赤字決算以降「安定した黒字基盤」を実現すべく、組合員・社員が各種施策や異動、災害復旧等に向き合ってきた結果、コロナ禍の中においても、黒字決算を実現したのも事実である。
- ・業績には直接表れない、感染への不安の中において、自らの健康管理を徹底し、安全・安定輸送の完遂に向けた、組合員・社員一人一人の並々ならぬ努力の現実に重きを置き、正しく評価すべきである。
- ・今後への期待も含め、組合員と家族の幸福の実現への強い決意を示していただきたい。

**最後まで全組合員でたたかいをつくり出そう！**